

多面的機能支払の実施に関する基本方針(要綱基本方針)

1. 取組の推進に関する基本的考え方

静岡県は、農業者の高齢化・減少等に伴う集落機能の低下と担い手の不足等から農地や農業用水等の資源の保全管理が困難になっている状況や農村の自然環境や景観の保全・形成等の農業の持つ多面的機能の発揮への県民の要請を踏まえ、平成19年度から地域協働による農地・農業用水等の資源の保全管理と農村環境の保全のための活動に対して支援を行ってきた。

現在までに地域協働によるこれらの取組は水田を中心に10,000haを超え、一定の成果が得られたが、依然として脆弱な農業生産構造と農産物を含む経済協定交渉等の国際化の進展や産地間競争の激化により、取組の一層の強化と迅速化が必要となっている。

このような中、県は「静岡県農山村整備みらいプラン(平成26年3月策定)」において、優良農地の集積による経営耕地面積の拡大による低コスト化を進めるとともに、それにより発生が懸念される集落機能の低下と環境の悪化に対する対応に取り組み、平成29年度に確保すべき「農業に利用されている農地面積」を71,000ha確保することとした。

本県の農山村づくりにおいて「多彩で高品質な本県農産物の安定供給」と「農業の持つ多面的機能の発揮」という農山村の重要な役割を将来にわたって維持・発展させていくためには、農業構造の改善という産業政策に合わせ農村の振興を図る必要があることから、農地周りの農業用排水路等施設の老朽化への対応や農地の出し手農家の農業への関わりの維持等を可能とする地域主体の保全管理の取組等の地域政策を強化することが重要である。

このため、従来地域協働による農地等の資源や農村環境の保全活動等に加え、農業者や農業団体等で構成される組織による農業用水や農地の維持に必要な取組に対しても、多面的機能支払交付金により支援する。

2. 農地維持支払交付金に関する事項

(1) 地域活動指針の策定及び同指針に基づき定める要件の設定

① 地域活動指針策定における基本的考え方

多面的機能支払交付金実施要綱(平成26年4月1日付け25農振第2254号農林水産事務次官依命通知。以下「実施要綱」という。)に基づく多面的機能支払交付金実施要領(平成26年4月1日付け25農振第2255号農林水産省農村振興局長。以下「実施要領」という。)別記1-2の国が定める活動指針及び活動要件を基礎として、本県の農業の特徴である茶畑やみかん畑等の畑地かんがい施設の適正管理を図るために、防霜施設に関する活動等、地域の実態を踏まえた取組を追加する。

② 地域活動指針に基づき定める要件設定の基本的考え方

ア. 地域資源の基礎的保全活動

地域活動指針の「地域資源の基礎的な保全活動」のすべての活動項目を実施する。ただし、活動の対象となる施設が存在しない活動項目は、除外する。また、点検結果から取り組む必要がない項目は、実施したものとみなす。

イ. 地域資源の適切な保全管理のための推進活動

地域活動指針の「地域資源の適切な保全管理のための推進活動」について、構造変化に対応した保全管理の目標を1以上定めた上で、その目標を達成するための保全管理の内容、取組方向、取組内容を1以上選択する。

なお、対象組織(実施要綱別紙5及び実施要綱別紙6で規定する広域活動組織及び活動組織をいう。以下同じ。)が活動計画書に定めた活動期間中に地域資源保全管理構想を策

定するものとする。

③ 国が定める活動指針及び活動要件に追加する事項等

ア. 地域資源の基礎的な保全活動

区分	取組内容の追加
構成項目	実践活動
対象施設等	農用地
活動項目	施設の適正管理
取組	防風ネット等の適正管理
取組内容	防風ネットや防霜施設周辺の下草刈りや簡易補修等による適正な管理を行うこと。
活動要件	—

④ 農地維持支払交付金に関する地域活動指針及び同指針に基づき定める要件（別紙1）

静岡県の農地維持支払交付金に関する地域活動指針及び同指針に基づき定める要件は、別紙1のとおりとする。

(2) 交付単価

① 基本的考え方

静岡県の農地維持活動の交付単価については、次の表のとおりとする。

② 農地維持支払交付金の交付単価

適用	地目	農地維持支払交付金の 10アール当たりの交付単価	左記のうち国の助成
基本単価	田	3,000円	1,500円
	畑	2,000円	1,000円
	草地	250円	125円

※県が静岡県多面的機能支払交付金交付要綱（平成26年7月1日付け農保第206号静岡県交通基盤部長通知。）に基づき国の助成と合わせた金額を市町へ交付する際、対象組織ごとの地目・面積に応じた農地維持支払交付金の額に1円未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てることとする。

※国の助成の変更等の事情により、市町と協議の上、対象農用地の面積等を調整することを可能とする。

(3) 交付金の算定の対象とする農用地

静岡県の農地維持活動の交付金の算定の対象とする農用地は、次のとおりとする。

① 農業振興地域の整備に関する法律（昭和44年法律第58号）第3条第1号に規定する農用地であって、同法第8条第2項第1号に規定する農用地区域内に存在し、農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律（平成26年6月法律第78号。以下「法」という。）第6条で規定する農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する計画（以下「促進計画」という。）において法第3条第3項第1号の事業を推進する区域内に存在するもの。

② 次に掲げる農用地で、市町が、多面的機能の発揮を図ることのできる、かつ、その必要があると認めるもので、促進計画において法第3条第3項第1号の事業を推進する区域内に存在するもの。

ア. 生産緑地法（昭和49年6月1日法律第68号）第3条第1項の規定により定められた生産緑地地区内に存する農地

イ. 地方公共団体との契約、条例等により、多面的機能の発揮の観点から適正な保全管理が図られている農用地

ウ. 多面的機能の発揮を図るための取組を上記2の(3)の①の農用地と一体的に取り組む必要があると認められる農用地

(4) その他必要な事項

① 交付金の交付方法

ア. 市町は、農地維持活動を実施する対象組織からの交付申請に基づき、(2) ②に規定する地目ごとの交付単価をそれぞれ該当する対象農用地の面積に乗じて得た金額の合計額の範囲内で対象組織に交付する。

イ. 県は、市町からの交付申請に基づき、国からの助成に県の助成を加えた金額を市町へ交付する。

3. 資源向上支払交付金（地域資源の質的向上を図る共同活動）に関する事項

(1) 地域活動指針の策定、同指針に基づき定める要件の設定

① 地域活動指針策定における基本的考え方

実施要領別記1-2の国が定める活動指針及び活動要件を基礎として、本県の農業の特徴である茶畑やみかん畑等の畑地かんがい施設を適正に管理するために、防霜施設に関する活動等、地域の実態を踏まえた取組を追加する。

② 地域活動指針に基づき定める要件設定の基本的考え方

ア. 施設の軽微な補修

活動計画書において、保全管理するものと位置付けた農用地、施設について必要な取組を実施する。ただし、実施に当たっては、機能診断結果に基づいて実施の必要性を判断する。また、研修については、各活動組織が活動計画書に定めた活動期間中に1回以上実施する。

イ. 農村環境保全活動

テーマを1以上定めた上で、そのテーマに該当する計画策定、啓発・普及及び実践活動のそれぞれの取組を毎年度1以上実施する。

ウ. 多面的機能の増進を図る活動

任意で取組内容を定めた上で、毎年度実施する。

③ 国が定める活動指針及び活動要件に追加する事項等

ア. 施設の軽微な補修

区 分	取組内容の追加
構成項目	実践活動
対象施設等	農用地
活動項目	施設
取 組	防風ネットや防霜施設の補修・設置
取組内容	防風ネットや防霜施設の補修を行うこと。又は新たに防風ネットや防霜施設を設置すること。ただし、防霜施設は、共同管理のもののみ対象とする。
活動要件	—
区 分	取組内容の追加
構成項目	実践活動
対象施設等	農用地
活動項目	施設
取 組	きめ細やかな雑草対策
取組内容	畦畔又は農用地法面の形状確保や雑草繁茂・病虫害発生の抑制のために、「カバープランツ又はハーブの植栽・管理」、「抑草ネット等の設置」、又は、「薬剤による地上部の除草」を行うこと。なお、植栽等にあたっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意することとし、抑草ネット等については、機能診断結果に基づき、必要に応じた適正な管理を行うこと。ただし、「薬剤による地上部の除草」の薬剤は、地上部のみを枯死させる特別

	なものに限る。
活動要件	—
区 分	取組内容の追加
構成項目	実践活動
対象施設等	水路
活動項目	水路
取 組	きめ細やかな雑草対策
取組内容	水路法面の形状確保や雑草繁茂・病虫害発生の抑制のために、芝等の「カバープランツ又はハーブの植栽・管理」、「抑草ネット等の設置」、又は、「薬剤による地上部の除草」を行うこと。なお、植栽等にあたっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意することとし、抑草ネット等については、機能診断結果に基づき、必要に応じた適正な管理を行うこと。ただし、「薬剤による地上部の除草」の薬剤は、地上部のみを枯死させる特別なものに限る。
活動要件	—
区 分	取組内容の追加
構成項目	実践活動
対象施設等	農道
活動項目	農道
取 組	きめ細やかな雑草対策
取組内容	路肩又は法面の形状確保や雑草繁茂・病虫害発生の抑制のために、芝等の「カバープランツ又はハーブの植栽・管理」、「抑草ネット等の設置」、又は、「薬剤による地上部の除草」を行うこと。なお、植栽等にあたっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意することとし、抑草ネット等については、機能診断結果に基づき、必要に応じた適正な管理を行うこと。ただし、「薬剤による地上部の除草」の薬剤は、地上部のみを枯死させる特別なものに限る。
活動要件	—
区 分	取組内容の追加
構成項目	実践活動
対象施設等	ため池
活動項目	堤体
取 組	きめ細やかな雑草対策
取組内容	ため池法面の形状確保や雑草繁茂・病虫害発生の抑制のために、芝等の「カバープランツ又はハーブの植栽・管理」、「抑草ネット等の設置」、又は、「薬剤による地上部の除草」を行うこと。なお、植栽等にあたっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意することとし、抑草ネット等については、機能診断結果に基づき、必要に応じた適正な管理を行うこと。ただし、「薬剤による地上部の除草」の薬剤は、地上部のみを枯死させる特別なものに限る。
活動要件	—

イ. 農村環境保全活動

追加事項なし

ウ. 多面的機能の増進を図る活動

追加事項なし

④ 地域活動指針及び同指針に基づき定める要件（別紙2）

静岡県の資源向上支払交付金（地域資源の質的向上を図る共同活動）（以下「資源向上支払交付金（共同）」という。）に関する地域活動指針及び同指針に基づき定める要件は、別紙2のとおりとする。

(2) 交付単価

① 基本的考え方

ア. 静岡県の資源向上支払交付金（共同）の交付単価については、②に掲げる表に定めるとおりとする。

イ. また、資源向上支払交付金（共同）の交付単価については、農地・水・環境保全向上対策実施要綱（平成19年3月30日付け18農振第1777号農林水産事務次官依命通知。以下「交付金旧要綱」という。）、農地・水保全管理支払交付金実施要綱（平成23年4月1日付け22農振第2661号農林水産事務次官依命通知。以下「交付金旧23要綱」という。）、農地・水保全管理支払交付金実施要綱（平成24年4月6日付け23農振第2342号農林水産事務次官依命通知。以下「交付金旧24要綱」という。）、又は実施要綱に基づいて、地域共同による農地・農業用水等の資源の質的向上活動が定着してきたことを踏まえ、交付金旧要綱、交付金旧23要綱、交付金旧24要綱又は交付要綱により共同活動又は資源向上活動（共同）を5年間以上実施した農用地及び資源向上活動（施設の長寿命化のための活動）（以下「資源向上活動（長寿命化）」という。）の対象農用地については、②に掲げる表中の交付単価に0.75を乗じて得た額を交付単価とする。

ウ. 多面的機能の増進を図る活動の取扱い

多面的機能の増進を図る活動に取り組まない場合には、別に農村振興局長の定めがある場合を除き、当該支払の交付単価に5/6を乗じた額を交付単価とする。

②資源向上支払交付金（地域資源の質的向上を図る共同活動）の交付単価

適用	地目	資源向上支払交付金（共同）の10アール当たりの交付単価	左記のうち国の助成
交付要件等を満たしている地区のうち、活動の採択を受けてから5年未満の農用地	田	2,400円	1,200円
	畑	1,440円	720円
	草地	240円	120円
交付要件等を満たしている地区のうち、活動を5年間以上実施した農用地及び資源向上活動（長寿命化）の対象農用地	田	1,800円	900円
	畑	1,080円	540円
	草地	180円	90円

※県が静岡県多面的機能支払交付金交付要綱（平成26年7月1日付け農保第206号静岡県交通基盤部長通知。）に基づき国の助成と合わせた金額を市町へ交付する際、対象組織ごとの地目・面積に応じた資源向上支払交付金（共同）の額に1円未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てることとする。

※国の助成の変更等の事情により、市町と協議の上、対象農用地の面積等を調整することを可能とする。

(3) その他必要な事項

① 交付金の交付方法

ア. 市町は、資源向上活動（共同）を実施する対象組織からの交付申請に基づき、(2)②に規定する地目ごとの交付単価をそれぞれ該当する対象農用地の面積に乗じて得た金額の合計額の範囲内で対象組織に交付する。

イ. 県は、市町からの交付申請に基づき、国からの助成に県の助成を加えた金額を市町へ

交付する。

4. 資源向上支払交付金（施設の長寿命化のための活動）に関する事項

（1）地域活動指針に基づき定める対象施設や対象活動等

① 基本的考え方

実施要領別記1－2の国が定める活動指針及び活動要件を基礎とし、本県の農業の特徴である茶畑やみかん畑等の畑地かんがい施設を適正に管理するために、防霜施設に関する活動等、地域の実態を踏まえた施設や対象活動を追加する。

② 地域の状況に応じて追加する農地に係る施設や対象活動

区分	対象施設		対象活動			
			分類	項目	取組内容	
項目の追加	集落が管理する施設	水路	補修	（附帯施設） ファームポンド（貯水施設）、ポンプ小屋、圧力タンク等の老朽化部分の補修	ファームポンド（貯水施設）、ポンプ小屋、圧力タンク等の破損や老朽化部分の補修等の対策を行うこと。	
			補修	（附帯施設） 給水栓の老朽化部分の補修等	共同管理している給水栓の破損や老朽化部分の補修等の対策を行うこと。	
			更新等	（附帯施設） 分水栓、バルブ、給水タンク等の老朽化した附帯設備の更新等	分水栓、バルブ、給水タンク等の老朽化した附帯施設の更新等することによる対策を行うこと。	
			更新等	（附帯施設） ファームポンド（貯水施設）やポンプ小屋等の管理用地の舗装	ファームポンド（貯水施設）やポンプ小屋等の管理用地が未舗装で、パイプライン附帯設備の維持管理等に支障が生じている場合、路面を舗装することによる対策を行うこと。	
			更新等	（附帯施設） 給水栓の老朽化部分の更新等	共同管理している給水栓の老朽化部分の更新等することによる対策を行うこと。	
		農道	補修	（附帯施設） 索道・軌道の補修	農地に接する部分に支障が生じている索道・軌道について部分的な補修などの対策を行うこと。ただし、共同利用及び共同管理しているものに限り、駆動部の補修は除く。	
			更新等	（附帯施設） 索道・軌道の更新	農地に接する部分に支障が生じている索道・軌道についてレール路線すべての更新などの対策を行うこと。ただし、共同利用及び共同管理しているものに限り、駆動部の補修は除く。	
		農地	補修	（附帯施設） 防風ネット等の補修	防風ネットや防霜施設の破損箇所や老朽化部分の補修等の対策を行うこと。ただし、共同管理されている施設で、対象組織で合意された場合のみ対象とする。	
			補修	（附帯施設） 排水施設の補修	排水施設の破損箇所や老朽化部分の補修等の対策を行うこと。ただし、排水施設の補修は、遊休農地発生防止のための保全管理の一環として、対象組織で合意された場合のみ対象とする。	
			更新等	（附帯施設） 防風ネット等の更新	老朽化等により機能に支障が生じている防風ネットや防霜施設の更新等の対策を行うこと。ただし、共同管理されている施設で、対象組織で合意された場合のみ対象とする。	
	更新等		（附帯施設） 排水施設の設置	湿潤な農用地で農業用機械による農作業に支障が生じている場合、新たに排水施設を設置することによる対策を行うこと。ただし、排水施設の設置は、遊休農地発生防止のための保全管理の一環として、対象組織で合意された場合のみ対象とする。		
	取組内容の追加	集落が管理する施設	ため池	補修	（ため池本体） 浚渫すべき土砂量を把握し、浚渫	堤体等の安定性を確保し、下流域の洪水被害や土砂流出被害を軽減するため、ため池又は沈砂池において浚渫すべき土砂量を事前に把握し、浚渫を行う等の対策を行うこと。
			水路	補修	（水路本体） 水路の破損部分の補修	ひび割れや部分的な欠損、側壁の倒壊、水路底の洗掘など、水路の一部区間が破損している場合、破損状況に応じた工法による補修等の対策を行うこと。

※農地に係る施設や対象活動については、対象組織が管理する水路、農道等の施設の長寿命

化のための活動を行った上で、交付金の対象範囲の中で実施することができるものとする。

③ 対象施設・対象活動に関する指針（別紙3）

静岡県の資源向上支払交付金（施設の長寿命化のための活動）（以下「資源向上支払交付金（長寿命化）」という。）の対象施設・対象活動に関する指針は、別紙3のとおりとする。

(2) その他必要な事項

① 資源向上支払交付金（長寿命化）の交付単価

適用	地目	資源向上支払交付金 （長寿命化）の10アール 当たりの交付単価	左記のうち国の助成
交付要件等を満たしている 取組地区	田	4,400円	2,200円
	畑	2,000円	1,000円
	草地	400円	200円

※県が静岡県多面的機能支払交付金交付要綱（平成26年7月1日付け農保第206号静岡県交通基盤部長通知。）に基づき国の助成と合わせた金額を市町へ交付する際、対象組織ごとの地目・面積に応じた資源向上支払交付金（長寿命化）の額に1円未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てることとする。

※国の助成の変更等の事情により、市町と協議の上、対象農用地の面積等を調整することを可能とする。

② 交付金の算定

(2) ①に規定する地目ごとの交付単価（実施要綱別紙5の第3に定める要件を満たさず、かつ直営施工を実施しない活動組織にあっては、当該単価に5/6を乗じて得た額）をそれぞれ該当する対象農用地の面積に乗じて得た金額の合計額を交付上限額とする。また、実施要綱別紙5の第3に定める要件を満たさない活動組織の場合は、当該金額又は保全管理する区域内に存在する集落数に200万円を乗じて得た額のいずれか小さい額とする。

③ 交付金の交付方法

ア. 市町は、資源向上活動（長寿命化）を実施する対象組織からの交付申請に基づき、(2) ①に規定する地目及び区分ごとの交付単価（実施要綱別紙5の第3に定める要件を満たさず、かつ直営施工を実施しない活動組織にあっては、当該単価に5/6を乗じて得た額）をそれぞれ該当する対象農用地の面積に乗じて得た金額の合計額を上限額とし、その範囲内で対象組織に交付する。また、実施要綱別紙5の第3に定める要件を満たさない活動組織の場合は、当該金額又は保全管理する区域内に存在する集落数に200万円を乗じて得た額のいずれか小さい額とする。

イ. 県は、市町からの交付申請に基づき、国からの助成に県の助成を加えた金額を市町へ交付する。

5. 広域協定の規模

静岡県内においては、実施要綱別紙5の要件を満たす場合、広域協定の対象とする区域が200ha以上の規模を有していれば、広域活動組織を設立することができる。

6. 地域の推進体制

(1) 基本的な考え方

本交付金による取組の推進にあたっては、県、市町、農業者団体、集落等の緊密な連携により実施することが必要であることから、本県では、県、市町、農業者団体等から構成する地域協議会を実施要綱別紙4の第1に規定する推進組織として位置づけることとする。

(2) 関係団体の役割分担

① 静岡県

- ア. 法第5条で規定する農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する基本方針を策定する。
- イ. 実施要綱第3の2(1)に基づき、多面的機能支払の実施に関する基本方針を策定する。
- ウ. 法第6条で規定する「促進計画」について、市町と協議を行う。
- エ. 本交付金の評価を行うため、第三者委員会を設置・運営する。
- オ. 他の県事業と連携して、説明会の開催や指導等を実施する。

② 市町

- ア. 促進計画を作成し、県と協議を行う。
- イ. 管内の広域活動組織の広域協定並びに対象組織の事業計画を認定する。
- ウ. 本交付金について、対象組織から提出された申請書等を審査するとともに、対象組織の代表者に交付金の交付額等を通知し、多面的機能支払交付金の交付を行う。
- エ. 毎年度、対象組織の本交付金に係る活動の履行確認を行う。
- オ. 他の市町事業と連携して、説明会の開催や指導等を実施する。

③ 地域協議会

- ア. 毎年度、対象組織に対して説明会を開催し、本交付金の実施に必要な事項を周知する。
- イ. 本交付金の普及・推進を図るため、推進に関する研修会の開催、手引きの作成などを行う。
- ウ. 対象組織の事務手続きの支援等を行う組織の特定非営利法人化に対して、支援を行う。

(3) 市町等への推進交付金の交付の方法

市町及び地域協議会への推進交付金は、国から静岡県に交付を受けた額のうち、市町推進事業・推進組織推進事業の実施に必要な経費の一部を静岡県から交付するものとする。

7. その他

(1) 平成26年度までに実施した多面的機能支払交付金等に係る役割分担

平成26年度の地域協議会推進事業のうち、平成27年度に行う事業については、地域協議会が実施する。

(2) 平成27年度中に新たに対象組織を設立する場合において、平成27年4月1日以降であって広域協定運営委員会規則若しくは規約の策定又は広域協定の認定若しくは事業計画の認定が行われる前に実施した対象活動があり、当該活動が設立後の対象組織が行う活動と同等の活動と市町長が認める場合には、当該活動について農地維持支払交付金又は資源向上支払金の対象活動とすることができる。ただし、この場合においては、対象組織は、当該活動について、活動の日時、内容、参加人数等の活動の記録、領収書等の支払を証明する書類、その他の活動内容を明らかにした書類を、市町長に提出するとともに、市町長は必要に応じ、当該活動の実施状況について現地確認を行うものとする。

【参考添付資料】

(参考1) 関係団体の役割分担表

(参考2) 実施体制図

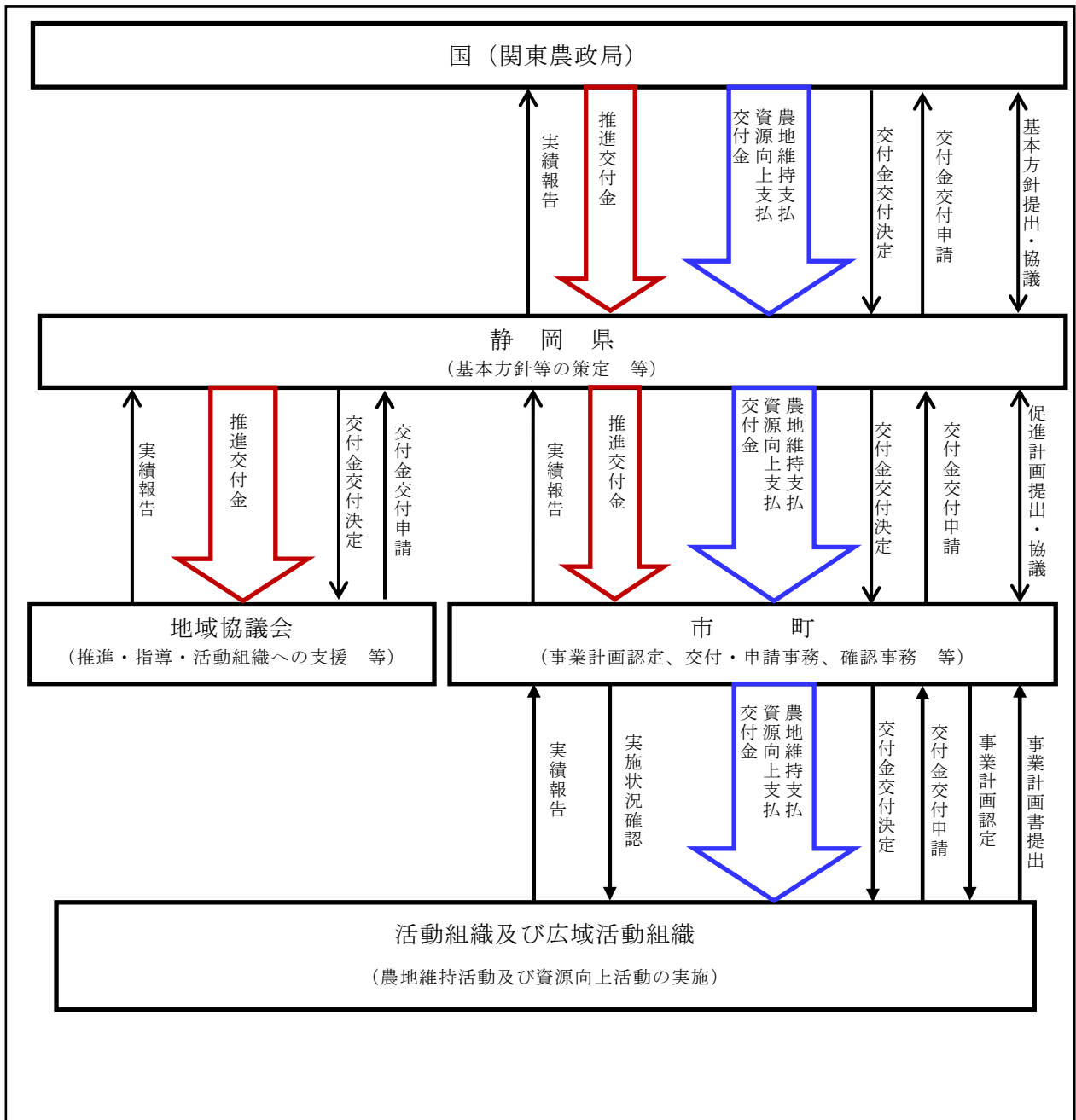
<参考1>

関係団体の役割分担表

事業内容	実施主体			備考
	静岡県	関係市町	推進組織 (地域協議会)	
多面的機能支払交付金				実施主体は活動組織又は広域活動組織
日本型直接支払推進交付金（うち多面的機能支払交付金に係る推進事業）				
1. 法基本方針の策定	○			
2. 促進計画の策定		○		
3. 第三者機関の設置、運営	○			
4. 要綱基本方針の策定	○			
5. (1) 事業計画の指導・審査		○		
(2) 事業計画の認定		○		
6. (1) 広域協定の指導、審査		○		
(2) 広域協定の認定		○		
7. (1) 実施状況確認		○		
(2) 実施状況報告		○		
8. 推進・指導				
(1) 活動組織等への説明会	○	○	○	
(2) 活動に関する指導、助言	○	○	○	
(3) 推進に関する手引き等の作成			○	
(4) 活動組織を支援する組織への支援	○	○		
9. (1) 交付申請書等の審査	○	○		
(2) 通知・交付	○	○		
10. その他推進事業の実施に必要な事項				
(1) 地域協議会の総会の開催			○	
(2) 地域協議会の規約等の策定			○	
(3) その他の事業を実施する上で必要な活動	○	○	○	

<参考2>

実施体制図



(別紙1)

静岡県 地域活動指針及び同指針に基づく要件
(農地維持活動)

第1 地域活動指針及び同指針に基づく要件

1 地域資源の基礎的な保全活動

地域活動指針			活動要件	
活動項目	取組			
点検・計画策定	点検	【農用地】 <input type="checkbox"/> 遊休農地等の発生状況の把握 【水路（開水路、パイプライン）】 <input type="checkbox"/> 施設の点検 【農道】 <input type="checkbox"/> 施設の点検 【ため池（管理道路含む）】 <input type="checkbox"/> 施設の点検	活動計画書に位置付けた農用地及び水路等の施設について、遊休農地の発生状況等の把握、泥の堆積状況等の点検を毎年度実施する。	
	年度活動計画の策定	<input type="checkbox"/> 年度活動計画の策定	点検結果を踏まえて、実践活動に関する年度計画を毎年度策定する。	
実践活動	農用地	遊休農地発生防止のための保全管理	<input type="checkbox"/> 遊休農地発生防止のための保全管理	活動計画書に位置付けた農用地及び水路等の施設について、遊休農地発生防止のための保全管理、畦畔・農用地法面等の草刈り等を毎年度実施する。 ただし、下線部の活動については、点検結果に基づき、必要となる取組を実施する。
		畦畔・農用地法面・防風林等の草刈り	<input type="checkbox"/> 畦畔・農用地法面等の草刈り <input type="checkbox"/> 防風林の枝払い・下草の草刈り	
		施設の適正管理	<input type="checkbox"/> 鳥獣害防護柵の適正管理 <input type="checkbox"/> 防風ネット等の適正管理	
		異常気象時の対応	<input type="checkbox"/> 異常気象後の見回り <input type="checkbox"/> 異常気象後の応急措置	
	水路（開水路・パイプライン）	水路の草刈り	<input type="checkbox"/> 水路の草刈り <input type="checkbox"/> ポンプ場、調整施設等の草刈り	
		水路の泥上げ	<input type="checkbox"/> 水路の泥上げ <input type="checkbox"/> ポンプ吸水槽等の泥上げ	
		施設の適正管理	<input type="checkbox"/> かんがい期前の注油 <input type="checkbox"/> ゲート類等の保守管理 <input type="checkbox"/> 遮光施設の適正管理	
		異常気象時の対応	<input type="checkbox"/> 異常気象後の見回り <input type="checkbox"/> 異常気象後の応急措置	
	農道	路肩・法面の草刈り	<input type="checkbox"/> 路肩・法面の草刈り	
		側溝の泥上げ	<input type="checkbox"/> 側溝の泥上げ	
		施設の適正管理	<input type="checkbox"/> 路面の維持	
		異常気象時の対応	<input type="checkbox"/> 異常気象後の見回り <input type="checkbox"/> 異常気象後の応急措置	
	ため池	ため池の草刈り	<input type="checkbox"/> ため池の草刈り	
		ため池の泥上げ	<input type="checkbox"/> ため池の泥上げ	
		附帯施設の適正管理	<input type="checkbox"/> かんがい期前の施設の清掃・防塵 <input type="checkbox"/> 管理道路の管理 <input type="checkbox"/> 遮光施設の適正管理 <input type="checkbox"/> ゲート類の保守管理	
		異常気象時の対応	<input type="checkbox"/> 異常気象後の見回り <input type="checkbox"/> 異常気象後の応急措置	

地域活動指針		活動要件
活動項目	取組	
研修	事務・組織運営等の研修 □活動に関する事務（書類作成、申請手続き等）や組織の運営に関する研修	事務・組織運営等に関する研修について、5年間に1回以上実施する。

2 地域資源の適切な保全活動のための推進活動

活動項目	取組	活動要件
地域資源の適切な保全管理のための推進活動	<ul style="list-style-type: none"> □地域内の中心経営体の育成・確保、農地集積を図り、中心経営体との役割分担や労力補完により保全管理を図る。【中心経営体型】 □集落営農組織の構築・充実等を図り、集落を基礎とした農業生産体制の整備と合わせた地域ぐるみの保全管理を図る。【集落ぐるみ型】 □地域外の農業生産法人や認定農業者等への農地集積を図り、地域外の経営体との協力・役割分担により保全管理を図る。【地域外経営体連携型】 □広域的な農地利用の調整、近隣集落との連携、旧村や水系単位等での連携を図り、集落間の相互の労力補完や広域的な活動により保全管理を図る。【集落間・広域連携型】 □地域住民の参画、地域外の団体や都市住民等との連携を図り、地域外を含め多様な地域資源管理の担い手の確保により保全管理を図る。【多様な参画・連携型】 □その他（地域の実情に応じた目標を対象組織が具体的に設定） 	<p>活動計画書において構造変化に対応した保全管理の目標を1以上選択する。</p> <p>ただし、その他を選択した場合は、地域の実情に応じた目標を具体的に設定する。</p>
2 保全管理の内容	<ul style="list-style-type: none"> □農地の利用集積の進展に伴う農用地に係る管理作業 □高齢化の進行に伴う高齢農家の農用地に係る管理作業 □不在村地主等の遊休農地に係る管理作業 □農業者、地域住民等が担う共同利用施設の保全管理 □その他（地域の実情に応じて対象組織が具体的に設定） 	<p>今後、地域資源の適切な保全管理を図っていくため、地域で取り組んでいくべき保全管理の内容を1以上選択する。</p> <p>ただし、その他を選択した場合は、地域の実情に応じた保全管理内容を具体的に設定する。</p>
3 取組方向	<ul style="list-style-type: none"> □担い手との連携の強化、担い手の人材・機材を有効活用した活動の実施 □入り作等の近隣の担い手との協力・役割分担に基づく活動の実施 □地域住民、土地持ち非農家等を含めた体制づくり、活動の実施 □地域住民、新規・定年就農者等、新たな保全管理の担い手の確保 □不在村地主との連絡・調整体制の構築、遊休農地等の有効活用 □隣接集落との連携による相互の労力補完、広域的な活動の実施 □その他（地域の実情に応じて対象組織が具体的に設定） 	<p>2の保全管理に取り組むために、今後進めていく取組の方向性を1以上選択する。</p> <p>ただし、その他を選択した場合は、地域の実情に応じた取組の方向性を具体的に設定する。</p>

活動項目	取組	活動要件
地域資源の適切な保全管理のための推進活動	4 取組内容 <input type="checkbox"/> 農業者（入り作農家、土地持ち非農家を含む）による検討会の開催 <input type="checkbox"/> 農業者に対する意向調査、農業者による現地調査 <input type="checkbox"/> 不在村地主との連絡体制の整備、調整、それに必要な調査 <input type="checkbox"/> 地域住民等（集落外の住民・組織等も含む）との意見交換・ワークショップ・交流会の開催 <input type="checkbox"/> 地域住民等に対する意向調査、地域住民等との集落内調査 <input type="checkbox"/> 有識者等による研修会、有識者を交えた検討会の開催 <input type="checkbox"/> その他（地域の実情に応じて対象組織が具体的に設定）	2の保全管理に取り組むために行う活動項目について1以上選択し、毎年度実施する。 ただし、その他を選択した場合は、地域の実情に応じた取組の内容を具体的に設定し、毎年度実施する。
	5 管理構想の策定 <input type="checkbox"/> 地域資源保全管理構想の策定	活動期間中に策定する。

第2 取組の説明

1 農地維持活動

(1) 地域資源の基礎的な保全活動

1) 点検・計画策定

ア 点検

【農用地に関する取組内容】

遊休農地等の発生状況の把握

- ・活動計画書に位置付けたすべての農用地について、遊休農地等の発生状況を把握すること。

【水路（開水路、パイプライン）に関する取組内容】

施設の点検

- ・活動計画書に位置付けたすべての水路について、泥の堆積状況（ゴミの投棄状況含む）を確認すること。
- ・活動計画書に位置付けたすべてのパイプラインについて、ポンプ吸水槽等の泥の堆積状況（ゴミの投棄状況含む）を確認すること。
- ・かんがい期前に通水試験を実施し、通水状況を把握すること。

【農道に関する取組内容】

施設の点検

- ・活動計画書に位置付けたすべての農道について、路面の凹凸の状況、側溝の泥の堆積状況（ゴミの投棄状況含む）を確認すること。

【ため池（管理道路含む）に関する取組内容】

施設の点検

- ・活動計画書に位置付けたすべてのため池について、泥の堆積状況（ゴミの投棄状況含む）、管理道路の状況（側溝のゴミの投棄状況含む）を確認すること。
- ・ため池の水抜きを行い、ゲート等のため池附帯施設の点検を行うこと。

イ 年度活動計画の策定

年度活動計画の策定

- ・点検・機能診断結果も踏まえて、次の2)の実践活動の当該年度の活動計画を策定すること。

2) 実践活動

ア 農用地に関する取組内容

① 遊休農地発生防止のための保全管理

遊休農地発生防止のための保全管理

- ・農地の草刈り等や害虫駆除を適正に行い、耕作可能な状態に農用地を保全管理す

ること。なお、既遊休農地については、活動期間内に遊休農地を解消すること。

②畦畔・農用地法面・防風林等の草刈り

□畦畔・農用地法面等の草刈り

- ・ほ場内の作業性の確保、病虫害発生低減等のために、活動計画書に位置付けた畦畔・農用地法面やその周辺部の草刈り又は除草を行い、農業生産への障害が生じないようにすること。この際には、草刈り又は除草活動後の草を適正に処理し、刈り取った場所に放置しない。又は、その場に存置する場合にあっては、農業生産・生活環境への支障が生じないようにすること。

□防風林の枝払い・下草の草刈り

- ・ほ場隣接の防風林やその周辺部の枝払い、草刈り又は除草等の作業により、適正な管理を行うこと。この際には、枝払いや草刈り又は除草活動後の草等を適正に処理し、刈り取った場所に放置しないこと。又は、その場に存置する場合にあっては農業生産・生活環境への支障が生じないようにすること。

③施設の適正管理

□鳥獣害防護柵の適正管理

- ・鳥獣被害防止のための防護柵の下草刈りや簡易補修等による適正な管理を行うこと。

□防風ネット等の適正管理

- ・防風ネットや防霜施設周辺の下草刈りや簡易補修等による適正な管理を行うこと。

④異常気象時の対応

□異常気象後の見回り

- ・洪水、台風、地震、豪雪等の異常気象等が収まった後に、十分に安全を確認した上で、畦畔、排水口、法面等の見回りを行い、状況を把握すること。

□異常気象後の応急措置

- ・異常気象等後の見回りの結果、農用地に障害が生じるような状況である場合、必要に応じて応急措置を行うこと。

イ 水路（開水路・パイプライン）に関する取組内容

①水路の草刈り

□水路の草刈り

- ・通水機能の維持、病虫害発生低減等のために、活動計画書に位置付けた水路やその周辺部の草刈り又は除草を行い、通水機能等に障害が生じないようにすること。この際には、草刈り又は除草活動後の草を適正に処理し、刈り取った場所に放置しないこと。又は、その場に存置する場合にあっては、農業生産・生活環境への支障が生じないようにすること。

□ポンプ場、調整施設等の草刈り

- ・活動計画書に位置付けたポンプ場、調整施設、営農飲雑用水施設等のパイプライン附帯施設やその周辺部の草刈り又は除草を行い、農業生産等への障害が生じないようにすること。この際には、草刈り又は除草活動後の草を適正に処理し、刈り取った場所に放置しないこと。又は、その場に存置する場合にあっては、農業生産・生活環境への支障が生じないようにすること。

②水路の泥上げ

□水路の泥上げ

- ・活動計画書に位置付けた水路の泥上げを実施し、通水機能に障害が生じないようにすること。この際には、泥上げた土砂を適正に処理し、その場所に放置しないこと。又は、その場に存置する場合にあっては、農業生産・生活環境への支障が生じないようにすること。

□ポンプ吸水槽等の泥上げ

- ・活動計画書に位置付けたポンプ吸水槽等の泥上げを実施し、施設機能に障害が生じないようにすること。この際には、泥上げた土砂を適正に処理し、その場所に放置しないこと。又は、その場に存置する場合にあっては、農業生産・生活環

境への支障が生じないようにすること。

③施設の適正管理

かんがい期前の注油

- ・活動計画書に位置付けた制水弁等への注油により、施設機能に障害が生じないようにすること。

ゲート類等の保守管理

- ・腐食等により劣化しやすいゲート、水門、除塵機等の開水路附帯施設の長寿命化に資するため、非かんがい期の屋内保管・冬期間の防寒対策、塗料や被覆資材の再塗布、管理運転等のきめ細やかな保安全管理を行うこと。

遮光施設の適正管理

- ・アオコによる通水障害やかんがい施設の損傷等を防止するために設置している遮光施設の簡易補修等の対策を行う等適正な管理を行うこと。

④異常気象時の対応

異常気象後の見回り

- ・洪水、台風、地震、豪雪等の異常気象等が収まった後に、十分に安全を確認した上で、水路の見回りを行い、施設状況を把握すること。
- ・洪水、台風、地震、豪雪等の異常気象等が収まった後に、十分に安全を確認した上で、地上部のパイプライン附帯施設（ポンプ場、調整施設等）の見回りを行い、施設状況を把握すること。

異常気象後の応急措置

- ・異常気象等後の見回りの結果、水路に土砂や雑木等がみられる場合や水路の施設機能に障害が生じるような状況である場合、必要に応じて応急措置を行うこと。
- ・異常気象等後の見回りの結果、パイプライン及び附帯施設の施設機能に障害が生じるような状況である場合、必要に応じて応急措置を行うこと。

ウ 農道に関する取組内容

①路肩・法面の草刈り

路肩・法面の草刈り

- ・活動計画書に位置付けた農道の路肩・法面やその周辺部の草刈り、除草又は枝払いを行い、通行及び農業生産に障害が生じないようにすること。この際には、草刈り又は除草活動後の草を適正に処理し、刈り取った場所に放置しないこと。又は、その場に存置する場合にあっては、農業生産・生活環境への支障が生じないようにすること。

②側溝の泥上げ

側溝の泥上げ

- ・活動計画書に位置付けた農道側溝の泥上げを実施し、通水機能に障害が生じないようにすること。この際には、泥上げした土砂を適正に処理し、その場所に放置しないこと。又は、その場に存置する場合にあっては、農業生産・生活環境への支障が生じないようにすること。

③施設の適正管理

路面の維持

- ・活動計画書に位置付けた農道への砂利の補充を行う等、通行の障害となる程度の路面の凹凸をなくすようにすること。

④異常気象時の対応

異常気象後の見回り

- ・洪水、台風、地震、豪雪等の異常気象等が収まった後に、十分に安全を確認した上で、農道の見回りを行い、施設状況を把握すること。

異常気象後の応急措置

- ・異常気象等後の見回りの結果、農道に土砂や雑木等がみられた場合や農道機能に障害が生じるような状況である場合、必要に応じて応急措置を行うこと。

エ ため池に関する取組内容

①ため池の草刈り

ため池の草刈り

- ・活動計画書に位置付けたため池やその周辺部の草刈り又は除草を行い、ため池の機能等に障害が生じないようにすること。この際には、草刈り又は除草活動後の草を適正に処理し、刈り取った場所に放置しないこと。又は、その場に存置する場合にあっては、ため池の機能及び農業生産・生活環境への支障が生じないようにすること。

②ため池の泥上げ

ため池の泥上げ

- ・活動計画書に位置付けたため池の泥上げを実施し、ため池の貯水機能に障害が生じないようにすること。この際には、泥上げした土砂を適正に処理し、その場所に放置しないこと。又は、その場に存置する場合にあっては、農業生産・生活環境への支障が生じないようにすること。

③附帯施設の適正管理

かんがい期前の施設の清掃・防塵

- ・活動計画書に位置付けたため池の施設について、清掃、除塵等の保守活動を行い、ため池の貯水及び配水等機能に障害が生じないようにすること。

管理道路の管理

- ・活動計画書に位置付けたため池の管理道路を補修（草刈り、側溝の泥上げ、通行の障害となる程度の路面の凹凸の解消等）し、管理道路としての機能に障害が生じないようにすること。

遮光施設の適正管理

- ・アオコによる通水障害やかんがい施設の損傷を防止するために設置している遮光施設の簡易補修等の対策を行う等適正な管理を行うこと。

ゲート類の保守管理

- ・腐食等により劣化しやすいゲート類等のため池附帯施設の長寿命化に資するため、非かんがい期の屋内保管・冬期間の防寒対策、又は、塗料や被覆資材の再塗布等のきめ細やかな保全管理を行うこと。

④異常気象時の対応

異常気象後の見回り

- ・洪水、台風、地震、融雪等の異常気象等が収まった後に、十分に安全を確認した上で、ため池及び附帯施設の見回りを行い、施設状況を把握すること。

異常気象後の応急措置

- ・異常気象等後の見回りの結果、ため池に土砂や雑木等がみられる場合やため池の施設機能に障害が生じるような状況である場合、必要に応じて応急措置を行うこと。

3) 研修（事務・組織運営等の研修）

活動に関する事務（書類作成、申請手続き等）や組織の運営に関する研修

- ・活動の円滑な実施が図られるように、活動に関する事務（書類作成、申請手続き等）や組織の運営に関する研修を行うこと。

(2) 地域資源の適切な保全管理のための推進活動

1) 構造変化に対応した保全管理の目標

活動計画書に構造変化に対応した保全管理目標を以下の項目から1以上選択すること。なお、その他を選択した場合は、その具体的内容を記載すること。

地域内の中心経営体の育成・確保、農地集積を図り、中心経営体との役割分担や労力補完により保全管理を図る。【中心経営体型】

（「人・農地プラン」の「今後の地域の中心となる経営体」に相当する経営体であ

る「中心経営体」との役割分担や労力補完を図る地域等が該当)

- 集落営農組織の構築・充実等を図り、集落を基礎とした農業生産体制の整備と合わせた地域ぐるみの保全管理を図る。【集落ぐるみ型】
(多数の小規模農家、兼業農家等が参画する形での集落単位の営農と一体的あるいは連携した取組を図る地域等が該当)
- 地域外の農業生産法人や認定農業者等への農地集積を図り、地域外の経営体との協力・役割分担により保全管理を図る。【地域外経営体連携型】
(地域外の大規模経営体等の入り作者と地域内の農業者等との連携を図る地域等が該当)
- 広域的な農地利用の調整、近隣集落との連携、旧村や水系単位等での連携を図り、集落間の相互の労力補完や広域的な活動により保全管理を図る。【集落間・広域連携型】
(活力ある周辺集落との連携、複数集落で個々の集落を広域的に支え合う体制の構築を図る地域等が該当)
- 地域住民の参画、地域外の団体や都市住民等との連携を図り、地域外を含め多様な地域資源管理の担い手の確保により保全管理を図る。【多様な参画・連携型】
(資源向上支払で多様な主体の参画による保全管理を進める地域や、NPO 法人、企業等との連携により農業生産の継続を図る地域等が該当)
- その他 (地域の実情に応じた目標を対象組織が具体的に設定)

2) 保全管理の内容

今後、地域資源の適切な保全管理を図っていくため、地域で取り組んでいくべき保全管理の内容を以下の項目から 1 以上選択すること。

ただし、その他を選択した場合は、その具体的内容を記載すること。

- 農地の利用集積の進展に伴う農用地に係る管理作業
- 高齢化の進行に伴う高齢農家の農用地に係る管理作業
- 不在村地主等の遊休農地に係る管理作業
- 農業者、地域住民等が担う共同利用施設の保全管理
- その他 (地域の実情に応じて対象組織が具体的に設定)

3) 取組方向

2) の保全管理に取り組むために、今後進めていく取組の方向性を以下の項目から 1 以上選択すること。

ただし、その他を選択した場合は、その具体的内容を記載すること。

- 担い手との連携の強化、担い手の人材・機材を有効活用した活動の実施
- 入り作等の近隣の担い手との協力・役割分担に基づく活動の実施
- 地域住民、土地持ち非農家等を含めた体制づくり、活動の実施
- 地域住民、新規・定年就農者等、新たな保全管理の担い手の確保
- 不在村地主との連絡・調整体制の構築、遊休農地等の有効活用
- 隣接集落との連携による相互の労力補完、広域的な活動の実施
- その他 (地域の実情に応じて対象組織が具体的に設定)

4) 取組内容

2) の保全管理に取り組むために行う活動項目について、以下の項目から 1 以上選択し、毎年度実施すること。

ただし、その他を選択した場合は、その具体的内容を記載すること。

- 農業者 (入り作農家、土地持ち非農家を含む) による検討会の開催
- 農業者に対する意向調査、農業者による現地調査
- 不在村地主との連絡体制の整備、調整、それに必要な調査
- 地域住民等 (集落外の住民・組織等も含む) との意見交換・ワークショップ・交流会の開催
- 地域住民等に対する意向調査、地域住民等との集落内調査
- 有識者等による研修会、有識者を交えた検討会の開催
- その他 (地域の実情に応じて対象組織が具体的に設定)

5) 管理構想の策定

□ 地域資源保全管理構想の策定

今後の農地集積の加速化等農村の構造変化の進展に対応して、地域資源の適切な保全管理に向けた活動を通じて、目指すべき保全管理の姿、それに向けて取り組むべき活動・方策等を活動期間中に取りまとめる。

(別紙2)

**静岡県 地域活動指針及び同指針に基づく要件
(資源向上活動(地域資源の質的向上を図る共同活動))**

第1 地域活動指針及び同指針に基づく要件

1 施設の軽微な補修

活動項目		取組	活動要件	
機能診断・ 計画策定	機能診断	【農用地】 <input type="checkbox"/> 施設の機能診断 <input type="checkbox"/> 診断結果の記録管理 【水路(開水路、パイプライン)】 <input type="checkbox"/> 施設の機能診断 <input type="checkbox"/> 診断結果の記録管理 【農道】 <input type="checkbox"/> 施設の機能診断 <input type="checkbox"/> 診断結果の記録管理 【ため池(管理道路含む)】 <input type="checkbox"/> 施設の機能診断 <input type="checkbox"/> 診断結果の記録管理	活動計画書に位置付けた農用地及び水路等の施設について、施設の機能診断、診断結果の記録管理を毎年度実施する。	
	年度活動計画の策定	<input type="checkbox"/> 年度活動計画の策定	機能診断結果を踏まえて、実践活動に関する年度計画を毎年度策定する。	
実践活動	農 用 地	畦畔・農用地法 面等	<input type="checkbox"/> 畦畔の再構築 <input type="checkbox"/> 農用地法面の初期補修	活動計画書に位置付けた農用地及び水路等の施設について、畦畔の再構築、水路側壁のはらみ修正等、必要な取組を毎年度実施する。
		施設	<input type="checkbox"/> 暗渠施設の清掃 <input type="checkbox"/> 農用地の除れき <input type="checkbox"/> 鳥獣害防護柵の補修・設置 <input type="checkbox"/> 防風ネットや防霜施設の補修・設置 <input type="checkbox"/> きめ細やかな雑草対策	
	水 路	水路	<input type="checkbox"/> 水路側壁のはらみ修正 <input type="checkbox"/> 目地詰め <input type="checkbox"/> 表面劣化に対するコーティング等 <input type="checkbox"/> 不同沈下に対する早期対応 <input type="checkbox"/> 側壁の裏込材の充填、水路耕畔の補修	

実践活動	水路	水路	<input type="checkbox"/> 水路に付着した藻等の除去 <input type="checkbox"/> 水路法面の初期補修 <input type="checkbox"/> 破損施設の補修 <input type="checkbox"/> きめ細やかな雑草対策 <input type="checkbox"/> パイプラインの破損施設の補修 <input type="checkbox"/> パイプ内の清掃	
	水路	附帯施設	<input type="checkbox"/> 給水栓ボックス基礎部の補強 <input type="checkbox"/> 破損施設の補修 <input type="checkbox"/> 給水栓に対する凍結防止対策 <input type="checkbox"/> 空気弁等への腐食防止剤の塗布等 <input type="checkbox"/> 遮光施設の補修等	
	農道	農道	<input type="checkbox"/> 路肩、法面の初期補修 <input type="checkbox"/> 軌道等の運搬施設の維持補修 <input type="checkbox"/> 破損施設の補修 <input type="checkbox"/> きめ細やかな雑草対策	
		附帯施設	<input type="checkbox"/> 側溝の目地詰め <input type="checkbox"/> 側溝の不同沈下への早期対応 <input type="checkbox"/> 側溝の裏込材の充填 <input type="checkbox"/> 破損施設の補修	
	ため池	堤体	<input type="checkbox"/> 遮水シートの補修 <input type="checkbox"/> コンクリート構造物の目地詰め <input type="checkbox"/> コンクリート構造物の表面劣化への対応 <input type="checkbox"/> 堤体侵食の早期補修 <input type="checkbox"/> 破損施設の補修 <input type="checkbox"/> きめ細やかな雑草対策	
		附帯施設	<input type="checkbox"/> 破損施設の補修 <input type="checkbox"/> 遮光施設の補修等	
研修	機能診断・補修技術等の研修	<input type="checkbox"/> 対象組織による自主的な機能診断及び簡単な補修に関する研修 <input type="checkbox"/> 老朽化が進む施設の長寿命化のための補修、更新等に関する研修 <input type="checkbox"/> 農業用水の保全、農地の保全や地域環境の保全に資する新たな施設の設置等に関する研修	機能診断・補修技術等に関する研修について、5年間に1回以上実施する。	

2 農村環境保全活動

活動項目	テーマ	取組	活動要件
計画策定	生態系保全	<input type="checkbox"/> 生物多様性保全計画の策定	選択したテーマについて、基本方針、保全方法、活動内容等を示した計画を毎年度策定する。
	水質保全	<input type="checkbox"/> 水質保全計画の策定 <input type="checkbox"/> 農地の保全に係る計画の策定	
	景観形成・生活環境保全	<input type="checkbox"/> 景観形成・生活環境保全計画の策定	
	水田貯留機能増進・地下水かん養	<input type="checkbox"/> 水田貯留機能増進に係る地域計画の策定 <input type="checkbox"/> 地下水かん養に係る地域計画の策定	
	資源循環	<input type="checkbox"/> 資源循環に係る地域計画の策定	
啓発・普及	共通	【広報活動（パンフレット等の作成・頒布、看板設置等）、啓発活動（有識者の指導、勉強会等）】 <input type="checkbox"/> 広報活動 <input type="checkbox"/> 啓発活動 【地域住民との交流活動、学校教育、行政機関等との連携】 <input type="checkbox"/> 地域住民等との交流活動 <input type="checkbox"/> 学校教育等との連携 <input type="checkbox"/> 行政機関等との連携 【地域内の規制等の取り決め】 <input type="checkbox"/> 地域内の規制等の取り決め	選択したテーマに基づき、地域住民等の理解を深めるための広報活動等の取組を毎年度1つ以上実施する。
実践活動	生態系保全	<input type="checkbox"/> 生物の生息状況の把握 <input type="checkbox"/> 生物多様性保全に配慮した施設の適正管理 <input type="checkbox"/> 水田を活用した生息環境の提供 <input type="checkbox"/> 生物の生活史を考慮した適正管理 <input type="checkbox"/> 放流・植栽を通じた在来生物の育成 <input type="checkbox"/> 外来種の駆除 <input type="checkbox"/> 希少種の監視	選択したテーマに基づき、生態系保全を図るため、生物の生息状況の把握等の取組を毎年度1つ以上実施する。

実践活動	水質保全	<input type="checkbox"/> 水質保全を考慮した施設の適正管理 <input type="checkbox"/> 水田からの排水（濁水）管理 <input type="checkbox"/> 循環かんがいの実施 <input type="checkbox"/> 非かんがい期における通水 <input type="checkbox"/> 水質モニタリングの実施・記録管理 <input type="checkbox"/> 排水路沿いの林地帯等の適正管理 <input type="checkbox"/> 沈砂池の適正管理 <input type="checkbox"/> 土壌流出防止のためのグリーンベルト等の適正管理 <input type="checkbox"/> 管理作業の省力化による水資源の保全	<p>選択したテーマに基づき、水質保全を図るため、水質保全を考慮した施設の適正管理等の取組を毎年度1つ以上実施する。</p>
	景観形成・生活環境保全	<input type="checkbox"/> 農業用水の地域用水としての利用・管理 <input type="checkbox"/> 景観形成のための施設への植栽等 <input type="checkbox"/> 農用地等を活用した景観形成活動 <input type="checkbox"/> 伝統的施設や農法の保全・実施 <input type="checkbox"/> 農用地からの風塵の防止活動 <input type="checkbox"/> 施設等の定期的な巡回点検・清掃	<p>選択したテーマに基づき、景観形成・生活環境保全を図るため、農業用水の地域用水としての利用・管理等の取組を毎年度1以上実施する。</p>
	水田貯留機能増進・地下水かん養	<input type="checkbox"/> 水田の貯留機能向上活動 <input type="checkbox"/> 水田の地下水かん養機能向上活動 <input type="checkbox"/> 水源かん養林の保全	<p>選択したテーマに基づき、水田貯留機能増進・地下水かん養を図るため、水田の貯留機能向上活動等の取組を毎年度1つ以上実施する。</p>
	資源循環	<input type="checkbox"/> 地域資源の活用・資源循環のための活動	<p>選択したテーマに基づき、資源循環を図るため、地域資源の活用・資源循環のための活動を毎年度実施する。</p>

3 多面的機能の増進を図る活動

活動項目	取組	活動要件
多面的機能の増進を図る活動	<input type="checkbox"/> 遊休農地の有効活用 <input type="checkbox"/> 農地周りの共同活動の強化 <input type="checkbox"/> 地域住民による直営施工 <input type="checkbox"/> 防災・減災力の強化	<p>任意の取組とし、実施する場合は、取組内容を選択した上で、毎年度実施する。</p>

多面的機能の増進を図る活動	<input type="checkbox"/> 農村環境保全活動の幅広い展開 <input type="checkbox"/> 医療・福祉との連携 <input type="checkbox"/> 農村文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化	任意の取組とし、実施する場合は、取組内容を選択した上で、毎年度実施する。
---------------	--	--------------------------------------

第2 取組の説明

1 施設の軽微な補修等

(1) 機能診断・計画策定

ア 機能診断

【農用地に関する取組内容】

□施設の機能診断

・活動計画書に位置付けたすべての施設の劣化状況等を早期に発見し、「実践活動」に位置付けた予防保全活動を適期に実施できるように畦畔、農用地法面、鳥獣害防護柵、防風ネット等の状況確認を行うこと。

□診断結果の記録管理

・状況確認の結果を経年的に記録管理すること。

【水路（開水路、パイプライン）に関する取組内容】

□施設の機能診断

・活動計画書に位置付けたすべての施設の劣化状況等を早期に発見し、「実践活動」に位置付けた予防保全活動を適期に実施できるように施設の状況確認（はらみの発生状況、目地部分の劣化状況、表面の劣化状況、沈下状況、側壁背面の侵食状況、藻等の発生状況、調整施設の遮光施設の状況、法面の侵食の発生状況、破損箇所 of 把握等）を行うこと。

・活動計画書に位置付けたすべての施設の劣化状況等を早期に発見し、「実践活動」に位置付けた予防保全活動を適期に実施できるように施設の状況確認（給水栓ボックスの基礎部の状況、破損箇所 of 把握、調整施設の遮光施設の状況等）を行うこと。

□診断結果の記録管理

・状況確認の結果を経年的に記録管理すること。

【農道に関する取組内容】

□施設の機能診断

・活動計画書に位置付けたすべての施設の劣化状況等を早期に発見し、「実践活動」に位置付けた予防保全活動を適期に実施できるように施設の状況確認（側溝の目地部分の劣化状況、側溝の劣化状況、側溝背面の劣化状況、路肩・法面の侵食状況、破損箇所 of 把握等）を行うこと。

□診断結果の記録管理

・状況確認の結果を経年的に記録管理すること。

【ため池（管理道路含む）に関する取組内容】

□施設の機能診断

- ・活動計画書に位置付けたすべての施設の劣化状況等を早期に発見し、「実践活動」に位置付けた予防保全活動を適期に実施できるように施設の状況確認（遮水シートの劣化状況、目地部分の劣化状況、コンクリート構造物の表面劣化状況、堤体部の侵食状況、遮光施設の状況、破損箇所の把握等）を行うこと。

□診断結果の記録管理

- ・状況確認の結果を経年的に記録管理すること。

イ 年度活動計画の策定

□年度活動計画の策定

- ・機能診断結果も踏まえて、実践活動の当該年度の活動計画を策定すること。

(2) 実践活動

ア 農用地に関する取組内容

① 畔・農用地法面等

□畦畔の再構築

- ・形状の劣化、沈下、破損等がみられる畦畔（土、コンクリート問わず）の幅や高さ等の形状回復等の対策を行うこと

□農用地法面の初期補修

- ・降雨による影響等で農用地法面に侵食が発見された場合、補修、補強等の対策を行うこと。

②施設

□暗渠施設の清掃

- ・暗渠施設への高圧水による清掃等を実施し、機能の回復等の対策を行うこと。

□農用地の除れき

- ・生産性の確保による遊休農地発生の防止のために、石れき等の除去を行うこと。

□鳥獣害防護柵の補修・設置

- ・鳥獣被害防止のための防護柵の補修や設置等を行うこと。

□防風ネットや防霜施設の補修・設置

- ・防風ネットや防霜施設の補修を行うこと。又は新たに防風ネットや防霜施設を設置すること。ただし、防霜施設は、共同管理のもののみ対象とする。

□きめ細やかな雑草対策

- ・畦畔又は農用地法面の形状確保や雑草繁茂・病虫害発生の抑制のために、「カバープランツ又はハーブの植栽・管理」、「抑草ネット等の設置」、又は、「薬剤による地上部の除草」を行うこと。なお、植栽等に当たっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響

に留意することとし、抑草ネット等については、機能診断結果に基づき、必要に応じた適正な管理を行うこと。ただし、「薬剤による地上部の除草」の薬剤は、地上部のみを枯死させる特別なものに限る。

イ 水路に関する取組内容

①水路

水路側壁のはらみ修正

- ・ 柵渠等により整備された水路の側壁部にはらみが発見された場合、はらみ修正等の対策を行うこと。

目地詰め

- ・ U字溝等のコンクリート構造物の目地部に劣化が発見された場合、目地部に充填剤を詰める等の対策を行うこと。また、目地部分の草抜きも行うこと。

表面劣化に対するコーティング等

- ・ コンクリート構造物等の表面が劣化していた場合、表面部へのコーティング剤の塗布等の対策を行うこと。

不同沈下に対する早期対応

- ・ 水路敷きが一部不同沈下していた場合、当該部分の補修等の対策を行うこと。

側壁の裏込材の充填、水路耕畔の補修

- ・ 柵渠等の水路側壁の背面に土壌侵食による空洞等が発見された場合、当該部分への裏込め材の充填、水路耕畔を補強する等の対策を行うこと。

水路に付着した藻等の除去

- ・ 除塵機の破損や通水障害を解消するため、除塵機や水路内に繁茂した藻や水生植物を除去する等の対策を行うこと。

水路法面の初期補修

- ・ 法面に侵食や漏水が発見された場合、補修・補強等の対策を行うこと。

破損施設の補修

- ・ 破損箇所や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

きめ細やかな雑草対策

- ・ 水路法面の形状確保や雑草繁茂・病虫害発生の抑制のために、芝等の「カバープランツ又はハーブの植栽・管理」や「抑草ネット等の設置」、又は、「薬剤による地上部の除草」を行うこと。なお、植栽等にあたっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意することとし、抑草ネット等については、機能診断結果に基づき、必要に応じた適正な管理を行うこと。ただし、「薬剤による地上部の除草」の薬剤は、地上部のみを枯死させる特別なものに限る。

パイプラインの破損施設の補修

- ・ 破損箇所や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

パイプ内の清掃

・パイプライン及び排泥工等の附帯施設内に堆積した土砂やゴミ等を除去するために、高圧水による除去活動等の対策を行うこと。

②附帯施設

□給水栓ボックス基礎部の補強

・特に洗掘を受けやすい給水栓ボックス付近の洗掘が判明した場合、補修等の対策を行うこと。

□破損施設の補修

・破損箇所や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

□給水栓に対する凍結防止対策

・特に冬期間を中心とした低温期及び夜間の低温を原因とするパイプ等の破裂防止のために給水栓ボックスに保温材を投入するなどの保温対策を行うこと。

□空気弁等への腐食防止剤の塗布等

・空気弁、バルブ、制御施設等のパイプライン附帯施設の機能を継続的に発揮させるために、腐食防止剤の塗布、清掃等のきめ細やかな保全管理を行うこと。

□遮光施設の補修等

・アオコによる通水障害やかんがい施設の損傷等を防止するために設置している遮光施設の補修や設置を行うこと。

ウ 農道に関する取組内容

①農道

□路肩、法面の初期補修

・降雨による影響等で路肩・法面に侵食が発見された場合、補修、補強等の対策を行うこと。

□軌道等の運搬施設の維持補修

・軌道等の運搬施設に劣化等による障害が発生している場合、維持、補修等の対策を行うこと。

□破損施設の補修

・破損箇所や老朽化した箇所の補修、簡易な補強等の対策を行うこと。

□きめ細やかな雑草対策

・路肩又は法面の形状確保や雑草繁茂・病虫害発生の抑制のために、芝等の「カバープランツ又はハーブの植栽・管理」や「抑草ネット等の設置」、又は、「薬剤による地上部の除草」を行うこと。なお、植栽等に当たっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意することとし、抑草ネット等については、機能診断結果に基づき、必要に応じた適正な管理を行うこと。ただし、「薬剤による地上部の除草」の薬剤は、地上部のみを枯死させる特別なものに限る。

②附帯施設

□側溝の目地詰め

・U字溝などのコンクリート構造物の目地部に劣化が発見された場合、目地部に充填剤を詰める等の対策を行うこと。また、目地部分の草抜きも行うこと。

□側溝の不同沈下への早期対応

・側溝が一部不同沈下していた場合、当該部分の補修等の対策を行うこと。

□側溝の裏込材の充填

・側溝側壁の背面で土壌侵食による空洞等が発見された場合、当該部分に裏込め材の充填等の対策を行うこと。

□破損施設の補修

・破損箇所や老朽化した箇所の補修、簡易な補強等の対策を行うこと。

エ ため池に関する取組内容

①堤体

□遮水シートの補修

・遮水シートに破損がみられた場合、部分的に補修する等の対策を行うこと。

□コンクリート構造物の目地詰め

・コンクリート構造物の目地部に劣化が発見された場合、目地部に充填剤を詰める等の対策を行うこと。また、目地部分の草抜きも行うこと。

□コンクリート構造物の表面劣化への対応

・コンクリート構造物等の表面に劣化が発見された場合、表面部にコーティング剤を塗布する等の対策を行うこと。

□堤体侵食の早期補修

・堤体の表面に侵食がみられた場合、補修等の対策を行うこと。

□破損施設の補修

・破損箇所や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

□きめ細やかな雑草対策

・ため池法面の形状確保や雑草繁茂・病虫害発生の抑制のために、芝等の「カバープランツ又はハーブの植栽・管理」や「抑草ネット等の設置」、又は、「薬剤による地上部の除草」を行うこと。なお、植栽等に当たっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意することとし、抑草ネット等については、機能診断結果に基づき、必要に応じた適正な管理を行うこと。ただし、「薬剤による地上部の除草」の薬剤は、地上部のみを枯死させる特別なものに限る。

②附帯施設

□破損施設の補修

・破損箇所や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

□遮光施設の補修等

・アオコによる通水障害やかんがい施設の損傷等を防止するために設置している遮光施設の補修や設置を行うこと。

(3) 研修（機能診断・補修技術等の研修）

- 対象組織による自主的な機能診断及び簡単な補修に関する研修
 - ・対象組織による自主的な機能診断及び簡単な補修が行えるように、技術研修の実施等の対象組織の技術向上対策を行うこと。
- 老朽化が進む施設の長寿命化のための補修、更新等に関する研修
 - ・対象組織による施設の長寿命化を図るための補修、更新等が行えるように、技術研修の実施等の対象組織の技術向上対策を行うこと。
- 農業用水の保全、農地の保全や地域環境の保全に資する新たな施設の設置等に関する研修
 - ・対象組織による農業用水の保全、農地の保全や地域環境の保全に資する新たな施設の設置等が行えるように、技術研修の実施等の対象組織の技術向上対策を行うこと。

2 農村環境保全活動

(1) 計画策定

①生態系保全

- 生物多様性保全計画の策定
 - ・地域における生物多様性保全に向けて、基本方針、保全する生物、保全方法、活動内容等を示した計画を策定すること。

②水質保全

- 水質保全計画の策定
 - ・地域における水質保全に向けて、基本方針、保全方法、活動内容等を示した計画を策定すること。
- 農地の保全に係る計画の策定
 - ・地域における農地からの濁水や土砂流出の防止に向けて、基本方針、活動内容等を示した計画を策定すること。

③景観形成・生活環境保全

- 景観形成・生活環境保全計画の策定
 - ・地域における景観形成・生活環境保全に向けて、基本方針、目標達成方法、活動内容等を示した計画を策定すること。

④水田貯留機能増進・地下水かん養

- 水田貯留機能増進に係る地域計画の策定
 - ・地域における水田等を利用した水田貯留機能増進に向けて、基本方針、活動内容等を示した計画を策定すること。
- 地下水かん養に係る地域計画の策定
 - ・地域における水田等を利用した地下水かん養に向けて、基本方針、活動内容等を示した計画を策定すること。

⑤資源循環

□資源循環に係る地域計画の策定

- ・地域における資源循環のために、基本方針、循環する資源、循環方法、活動内容等を示した計画を策定すること。

(2) 啓発・普及

①広報活動（パンフレット等の作成・頒布、看板設置等）、啓発活動（有識者の指導、勉強会等）に関する取組内容

□広報活動

- ・農村環境保全活動に対する地域住民等の理解を深めるために、パンフレット、機関誌等の作成・頒布、看板の設置、インターネットのホームページの開設・更新等の活動を行うこと。
- ・外来種の侵入防止や駆除に対する理解を醸成する取組を行うこと。

□啓発活動

- ・地域の農村環境保全のために、農村環境の各テーマに詳しい専門家の意見を伺う等、有識者の指導・助言を得ること。
- ・地域で保全する生物の種類を検討するためや、地域の水質保全計画・景観形成計画等を策定するため等に、集落等での寄合等の場を活用した勉強会等を行うこと。

②地域住民との交流活動、学校教育、行政機関等との連携に関する取組内容

□地域住民等との交流活動

- ・活動を契機として、農村環境保全活動に対する地域住民等の関心を高めるために、地域住民等との交流活動を行うこと。
- ・地域における生物多様性保全、景観形成等への認識を高めるために、地域内の水路等でみられる生物を対象とした観察会や地域の農村環境を再点検するためのウォーキング等を行うこと。
- ・生物多様性保全への意識向上のために設置した植物等の観察路や鳥の観察台について、定期的なゴミ除去等による適正な維持管理を行うこと。又は、新たに観察路等を設置し、管理を行うこと。
- ・農村環境保全活動に取り組む団体との意見交換会の実施等により、連携を図ること。
- ・地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進していくために下流域と上流域との間での情報交換会の実施等により、連携を図ること。

□学校教育等との連携

- ・農村環境保全活動の啓発等のために、テーマに応じた出前講座や体験の場の提供等により、小中学校、高等学校、幼稚園等と連携を図ること。

□行政機関等との連携

- ・市町村が田園環境整備マスタープランを策定（変更）する際に、地域における生息生物、水質等の各テーマに関する情報を提供したり、内容に

ついて意見を述べること。また、地域での取組等をマスタープランに位置付ける等の連携強化を図ること。

・市町村等が作成する広報誌について、地域における生息生物・景観等についての情報を提供したり、地域の取組実績等を投稿すること。

③地域内の規制等の取り決めに関する取組内容

□地域内の規制等の取り決め

・農村環境保全活動を推進していくために、規制（ルール、約束事等）について、地域の合意の下で取り決めること。

(3) 実践活動

①生態系保全

□生物の生息状況の把握

・地域における生物多様性保全を推進するために、保全する生物を中心とした生物等の調査を行うこと。地域に生息・生育する生物、又は保全する生物の分布図を、地域情報が把握できる地形図を活用して作成すること。

・地域において保全する生物の動向を把握するために、モニタリング調査を行うとともに、その記録管理を行うこと。

□生物多様性保全に配慮した施設の適正管理

・地域において保全する生物（主に魚類）の生息環境を創出するワンドの設置、石積み・多孔コンクリートによる護岸等を行った水路や多自然型に復元した水路等について、ゴミの除去等により適正な維持管理を行うこと。又は、新たに魚巢ブロック等を設置し、適正な維持管理を行うこと。

・地域における魚類の生息環境を改善する魚道や段差解消等を行った水路等について、ゴミの除去等により適正な維持管理を行うこと。又は、新たに魚道等を設置し、適正な維持管理を行うこと。

・地域における魚類等の生息環境を改善するために、水路への堰板の設置等を通じて、流速、水深の管理を行うこと。又は、保全池等の水位管理を行うこと。

・動物等の生息環境改善のために、植栽等によって確保した連続性のある緑地帯や動物等が道路や水路を横断しやすくするような施設について、適正な維持管理を行うこと。又は、新たに道路や水路を横断しやすくするような施設を設置し、適正な維持管理を行うこと。

□水田を活用した生息環境の提供

・遊休農地等をビオトープとして位置付けるとともに、畦畔の維持や水管理等による適正な維持管理を行うこと。

・鳥類の餌場、ねぐらの確保又は両生類や昆虫類の産卵等のために、作物の収穫後の水田を湛水状態にする活動を行うこと。

・渡り鳥への保護活動として、遊休農地等を利用して鳥の餌となる植物の

栽培等を行うこと。

- ・魚類、両生類等の生息場、待避場を確保するため、ほ場内に小水路等を設置し、適正な維持管理を行うこと。

□生物の生活史を考慮した適正管理

- ・地域において保全する生物の生息環境を維持保全するために、当該生物の生活史に配慮した草刈りを行うこと。なお、その際は水路等内の刈草等とともに捕獲された生物を水路等に戻すこと。

- ・地域において保全する生物の生息環境を維持保全するために、当該生物の生活史に配慮した水路の泥上げを行うこと。なお、その際は土砂とともにすくい上げられた生物を水路等に戻すこと。

- ・地域において保全する生物の生息環境を維持保全するために、農用地から林地等までを移動範囲とする生物のネットワークを考慮して、農用地・林地等の適正な維持管理を行うこと。

□放流・植栽を通じた在来生物の育成

- ・生物多様性保全の観点から、地域内に以前から生息していたが、近年減少していると感じられる生物について、放流・植栽したり、生息環境を継続的に確保するための適正な維持管理を行うこと。

- ・水路法面や畦畔等に植栽する場合、通常地域内に生息しない植物を植栽するのではなく、通常地域内に生息する在来植物を植栽するとともに、定期的な草刈り等による適正な維持管理を行うこと。

- ・基礎活動としてため池の水抜きを行った後、外来種以外の魚類等の生息が確認された場合に、元のため池に戻すか、連続性のある同一水系のため池や河川等に移植すること。

- ・デコイ（鳥の模型）や遮光壁の設置・管理や鳴き声を発生させる等の、鳥類の呼び寄せに寄与する活動を行うこと。

- ・鳥類の生息環境の改善のために、巣箱を設置・管理すること。

□外来種の駆除

- ・地域における生物多様性保全のため、外来の魚類等の生物を駆除する活動を行うこと。

□希少種の監視

- ・地域における生物多様性保全のために、水路、ため池等に希少種が生息・生育する場合、乱獲等を防ぐための定期的な監視を行うこと。

②水質保全

□水質保全を考慮した施設の適正管理

- ・水質保全のために、排水路やため池内に植栽したヨシ等の植物について、適正な時期に刈り取りを行い、排水路やため池外に搬出し処分する等の適正な維持管理を行うこと。又は、新たにヨシ等を植栽し、適正な維持管理を行うこと。なお、植栽等にあたっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意すること。

- ・水質保全のために、排水路やため池内に設置した木炭等の接触材を利用した浄化施設等の水質改善施設について、接触材を定期的に更新する等の適正な維持管理を行うこと。又は、新たに水質改善施設を設置し、適正な維持管理を行うこと。

- ・水質保全のために、排水路に設置した浄化池について、泥上げ、清掃等の適正な維持管理を行うこと。又は、新たに浄化池を設置して適正な維持管理を行うこと。

□水田からの排水（濁水）管理

- ・水田からの濁水流出防止を図るために、濁水がほ場内に滞留して浮遊（懸濁）物質の沈殿が図られるように、排水止水板を設置し、その適正な維持管理を行うこと。

□循環かんがいの実施

- ・地域内外の水質を保全するため、地域内での循環かんがいを実施すること。

□非かんがい期における通水

- ・水質改善や悪臭発生防止のために、非かんがい期においてもゲート等の適正な管理等によって水路に通水すること。

□水質モニタリングの実施・記録管理

- ・水質の動向を把握するために、水質モニタリング調査を行うとともに、その記録管理を行うこと。

□排水路沿いの林地帯等の適正管理

- ・水質保全に向けて、畑からの濁水等の流出抑制を図るために排水路沿いに設置した林地帯等について、下草刈り等による適正な維持管理を行うこと。又は、新たに林地帯等の設置を行い、適正な維持管理を行うこと。

□沈砂池の適正管理

- ・水質保全に向けて、土砂堆積機能の効果的発揮や浮遊物の流出防止を図るため、沈砂池や土砂溜桝の泥上げやその施設への植栽を行い、適正な管理を行うこと。又は、新たに沈砂池の設置を行い、適正な維持管理を行うこと。

□土壌流出防止のためのグリーンベルト等の適正管理

- ・水質保全に向けて、農用地からの土壌流出を抑制するために設置したグリーンベルト（緑地帯）等（畦畔、木柵等含む）について、適正な維持管理を行うこと。又は、新たにグリーンベルト（緑地帯）等（畦畔、木柵等含む）を設置し、適正な維持管理を行うこと。なお、植栽等にあたっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意すること。

- ・水質保全に向けて、作物収穫後に通常裸地期間となる場合、土壌流出を抑制するために営農目的以外で流出防止対策（マルチ、敷きわら、植物の植栽等）を行い、適正な維持管理を行うこと。

□管理作業の省力化による水資源の保全

- ・管理作業を省力化し、水資源の逼迫や下流閉鎖水域の水質悪化を改善するため、末端ゲート・バルブ又は給水栓・取水口の自動化等を行うこと。

③景観形成・生活環境保全

□農業用水の地域用水としての利用・管理

- ・農業用水を生活用水として利用するとともに、適正な利用が可能となるように利用区間の水路底やその周辺部の清掃及び適正な維持管理を行うこと。
- ・農業用水を防火用水として利用するとともに、適正な利用が可能となるように防火水槽の定期的な清掃、防火訓練への協力、水位確保のための堰板管理等を行うこと。
- ・農業用水を消流雪用に利用するとともに、その適正な利用が可能となるように降雪期前の点検、補修、及びその他期間にも適正な維持管理を行うこと。
- ・集落内にある水路を親水空間として利活用し、定期的な清掃等により、適正な維持管理を行うこと。
- ・農村の水辺空間の景観形成を図るため、非かんがい期においても、ため池に貯水すること。

□景観形成のための施設への植栽等

- ・農用地（畦畔、防風林含む）、水路、ため池、農道（路肩含む）を活用して景観を良くするために、花壇、植生土のうの設置や景観植物の植栽を行うとともに、ゴミの除去等による適正な維持管理を行うこと。なお、植栽等にあたっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意すること。
- ・景観形成のために、水路等に水生植物（花き等）を植栽するとともに、補植等による適正な維持管理を行うこと。なお、植栽等にあたっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意すること。
- ・景観形成のために、農道の歩道部分を木材チップで覆う等の活動を行うこと。

□農用地等を活用した景観形成活動

【農用地等を活用した景観形成活動】

- ・農用地等の資源が活用されて形成される良好な景観を維持、改善するため、農用地周辺の屋敷林の適正管理、廃屋（使用されなくなった農具小屋等）の撤去又は周辺景観に配慮した利活用、複数の施設の壁の同系色化等の活動を実施し、景観形成を図ること。

【農用地等を活用した景観に配慮した作付け】

- ・農用地への作物の作付け及び輪作を行う際に、農用地への景観作物の作

付けや景観に配慮した輪作を行うこと。

・農村の景観を良好にするために、遊休農地等に景観植物等の植栽を行うこと。なお、植栽等にあたっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意すること。

□伝統的施設や農法の保全・実施

・はさ掛け等の伝統農法の実践を通じて農村特有の景観形成を図ること。
・地域に賦存する歴史的な価値のある農業施設の保全を行うこと。
・景観形成のために、機械作業が不可能な棚田等の石垣法面の草刈りや補修等を適正に行うこと。

□農用地からの風塵の防止活動

・農用地周辺に立地する住宅等に対して、農用地からの風塵による影響を小さくするため、主として営農目的以外で農用地への植物の植栽を行い、適正な維持管理を行う等の取組を行うこと。又は、風塵防止のための並木を整備し、枝打ち等により適正な維持管理を行うこと。なお、植栽等にあたっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意すること。

□施設等の定期的な巡回点検・清掃

・地域内の景観保全及び生活環境保全のために、ゴミの不法投棄防止のための巡回点検を行うこと。
・地域内の景観保全及び生活環境保全のために、農用地、開水路、パイプライン附帯施設、ため池、農道等の施設周辺のゴミを定期的に除去すること。
・地域の重要な通行の場となっている農道の除雪を行うこと。
・畦畔法面の管理作業を省力化し、管理の粗放化による病虫害の増加、景観の悪化等を防止するため、法面への小段（犬走り）の設置を行うこと。

④水田貯留機能増進・地下水かん養

□水田の貯留機能向上活動

・大雨時の水田からの排水を調節するため、水田の落水口に排水調整板の設置等を行うこと。
・大雨時の水田での貯留効果を向上させるため、畦畔の嵩上げ等を行うこと。
・大雨時に、水田への湛水による一時貯留やため池の空容量を活用し、貯留機能を向上させるため、ゲート等の操作や排水ポンプの稼働を行うこと。

□水田の地下水かん養機能向上活動

・水田の持つ地下水かん養機能を発揮させるため、かんがい・防除等の営農以外の目的で水田への水張りを行うこと。又は、新たにポンプを設置し、計画に基づいた水田への湛水を行うこと。

- ・水田の持つ地下水かん養機能を効果的に発揮させるため、収穫後に耕起を行うこと。

□水源かん養林の保全

- ・地下水かん養の便益を受ける地域が上流域の地域と連携を取りながら、水源かん養林を対象にした保全活動を行うこと。

⑤資源循環

□地域資源の活用・資源循環のための活動

【有機性物質のたい肥化】

- ・資源の循環を推進するために、家庭からの生ゴミ等を収集し、たい肥化を図ること。

- ・資源の循環を推進するために、農業集落排水施設から発生する汚泥を収集し、たい肥化を図ること。

【間伐材等を利用した防護柵等の適正管理】

- ・地域及び周辺で産出される間伐材を利用して設置した防護柵について、破損があった場合などには早急な対応を行うなど、適正な維持管理を行うこと。又は、新たに間伐材を利用した防護柵を設置し、維持管理すること。

【農業用水の反復利用】

- ・地域において農業用水を有効活用するために、農業用水を反復して循環的な利用を行うこと。又は、新たに排水の再利用が可能となるポンプを設置し、計画に基づいた通水を行うこと。

【小水力発電施設の適正管理】

- ・地域内にある水路に設置した小水力発電施設について、継続的に発電が可能となるような適正な維持管理を行うこと。又は、新たに発電施設を設置し、維持管理すること。又は、小水力発電の導入に向けた実験活動を行うこと。

3 多面的機能の増進を図る活動

□遊休農地の有効活用

- ・地域内外からの営農者の確保、地域住民による活用、企業と連携した特産物の作付等、遊休農地の有効活用のための活動を行うこと。

□農地周りの共同活動の強化

- ・鳥獣被害防止のための対策施設の設置や農地周りの藪等の伐採、農地への侵入竹等の防止等、農地利用や地域環境の改善のための活動を行うこと。

□地域住民による直営施工

- ・農業者・地域住民が直接参加した施設の補修や環境保全施設の設置、そのための技術習得等、地域住民が参加した直営施工による活動を行うこと。

□防災・減災力の強化

・水田やため池の雨水貯留機能の活用、危険ため池の管理体制の整備・強化等、地域が一体となった防災・減災力の強化のための活動を行うこと。

□農村環境保全活動の幅広い展開

・農地等の環境資源としての役割を活かした、景観の形成、生態系の保全・再生等、農村環境の良好な保全に向けた幅広い活動を行うこと（地域資源の質的向上を図る共同活動において取り組まれる農村環境保全活動に加えて、1テーマを選択し農村環境保全活動を実施する対象組織及び4に定める活動を実施する対象組織が対象）。

□医療・福祉との連携

・地域の医療・福祉施設等と連携した、農村環境保全活動への参画や農業体験等を通じた交流活動等、地域と医療・福祉施設等との連携を強化する活動を行うこと。

□農村文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化

・農村特有の景観や文化を形成してきた伝統的な農業技術、農業に由来する行事の継承等、文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化に資する活動を行うこと。

4 多面的機能の増進を図る活動における「農村環境保全活動の幅広い展開」の対象組織

3における「農村環境保全活動の幅広い展開」の対象組織は、地域資源の質的向上を図る共同活動において取り組まれる農村環境保全活動に加えて、当該農村環境保全活動とは異なる1テーマ以上の農村環境保全活動を選択及び実施する対象組織、又は以下の高度な保全活動を実施する対象組織とする。

(1) 農業用水の保全

ア 循環かんがいによる水質保全

□循環かんがい施設の保全等

・循環かんがいにより地域の河川、湖沼等の水質改善を図るために、ポンプの分解点検清掃及び循環池のゴミ・土砂の除去を行うこと。また、定期的に水質調査を行い、周辺水域への負荷の軽減効果を確認すること。

イ 浄化水路による水質保全

□水路への木炭等の設置

・農業用排水の水質改善を図るために、水路又はため池に水質浄化施設（木炭・れき・織布等の接触材、ヨシやガマ等の水質浄化植物等）を設置し、浄化施設の適正な維持管理（施設の清掃、植物の刈り取り）を行うこと。また、定期的に水質調査を行い、水質を確認すること。なお、植栽等にあたっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意すること。

ウ 地下水かん養

□冬期湛水等のためのポンプ設置

- ・農業用水源としての地域の地下水をかん養するために、ポンプを設置し、かんがい・防除等の営農目的以外で、計画に基づいた水田への湛水を行うこと。

エ 持続的な水管理

□末端ゲート・バルブの自動化等

- ・管理の粗放化による溢水や水資源の逼迫等の地域の水管理に関する問題を改善するため、末端ゲート・バルブの自動化等を行うこと。

□給水栓・取水口の自動化等

- ・管理の粗放化による水資源の逼迫や閉鎖水域の水質悪化等の地域の水環境に関する問題を改善するため、給水栓・取水口の自動化等を行うこと。

(2) 農地の保全

ア 土壌流出防止

□グリーンベルト等の設置

- ・農地等からの土壌流出を防止するために、農地周辺の水路沿い等にグリーンベルト（緑地帯）等（畦畔、木柵等含む）を設置し、適正な維持管理を行うこと。なお、植栽等にあたっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意すること。

□防風林の設置

- ・活動計画書に位置付けた農地において、農地等からの砂塵飛散を防止するために、農地に隣接する防風林を設置し、枝払いや草刈り、除草等の適正な維持管理を行うこと。

(3) 地域環境の保全

ア 生物多様性の回復

□水田魚道の設置

- ・地域における保全対象となる生物（魚類）やそれを捕食する猛禽類等の生息環境の確保のために、対象となる魚類の遡上が可能となるよう水田と排水路の間等に適切な小規模魚道を設置し、適正な維持管理を行うこと。また、保全対象となる魚類等の生息状況について適切にモニタリング調査を行うこと。

□水路魚道の設置

- ・地域における対象となる生物（魚類）やそれを捕食する猛禽類等の生息環境の確保のために、対象となる魚類の遡上が可能となるよう水路に適切な魚道を設置し、適正な維持管理を行うこと。また、保全対象となる魚類等の生息状況について適切にモニタリング調査を行うこと。

□生息環境向上施設の設置

- ・地域における対象となる生物（魚類等）やそれを捕食する猛禽類等の生息

環境の確保のために、水路、遊休農地等にワンド、ビオトープ、石積み・多孔コンクリート護岸等を設置し、適正な維持管理を行うこと。また、保全対象となる生物の生息状況について適切にモニタリング調査を行うこと。

□生物の移動経路の確保

・地域における保全対象となる生物の移動経路の確保のために、対象となる野生生物を特定した上で、道路や水路を横断しやすくするような施設（水路蓋、農道下の暗渠等）を設置し、適正な維持管理を行うこと。また、保全対象となる生物の移動経路が確保されていることについて適切にモニタリング調査を行うこと。

イ 水環境の回復

□水環境回復のための節水かんがいの導入

・排水の再利用等により、かんがい用水の取水量を節減し、地域の水環境の回復を図るために、排水の再利用が可能となるようポンプ等を設置し、計画に基づいた通水を行うこと。

ウ 持続的な畦畔管理

□カバープランツ（地被植物）の設置

・管理の粗放化による病虫害の増加、法面浸食、景観の悪化等を防止するために、カバープランツを設置し、適正な維持管理を行うこと。なお、植栽等にあたっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意すること。

□法面への小段（犬走り）の設置

・管理の粗放化による病虫害の増加や、景観の悪化等を防止するために、法面へ小段を設置すること。

(4) 専門家の指導

□専門家による技術的指導の実施

・対象活動に関する専門的な知見又は技能を有している者の指導や助言を受け対象活動に取り組むこと。また、指導内容及びその反映状況を記録すること。

(別紙3)

静岡県 施設の長寿命化のための活動の対象施設・対象活動 に関する指針

1. 対象施設、対象活動の項目

対象施設		対象活動	
		補修	更新等
集落が 管理す る施設	水路 (開水路) (パイプライン)	(水路本体) <input type="checkbox"/> 水路の破損部分の補修 <input type="checkbox"/> 水路の老朽化部分の補修 <input type="checkbox"/> 水路側壁の嵩上げ <input type="checkbox"/> U字フリューム等既設水路の再布設	(水路本体) <input type="checkbox"/> 素掘り水路からコンクリート水路への更新 <input type="checkbox"/> 水路の更新(一路線全体)
		(附帯施設) <input type="checkbox"/> 集水枡、分水枡の補修 <input type="checkbox"/> ゲート、ポンプの補修 <input type="checkbox"/> 安全施設の補修 <input type="checkbox"/> ファームポンド(貯水施設)、ポンプ小屋、圧力タンクの老朽化部分の補修 <input type="checkbox"/> 給水栓の老朽化部分の補修等	(附帯施設) <input type="checkbox"/> ゲート、ポンプの更新 <input type="checkbox"/> 安全施設の設置 <input type="checkbox"/> 分水栓、バルブ、給水タンク等の老朽化した附帯設備の更新等 <input type="checkbox"/> ファームポンド(貯水施設)やポンプ小屋等の管理用地の舗装 <input type="checkbox"/> 給水栓の老朽化部分の更新等
	農道	(農道本体) <input type="checkbox"/> 農道路肩、農道法面の補修 <input type="checkbox"/> 舗装の打換え(一部)	(農道本体) <input type="checkbox"/> 未舗装農道を舗装(砂利、コンクリート、アスファルト)
		(附帯施設) <input type="checkbox"/> 農道側溝の補修 <input type="checkbox"/> 索道・軌道の補修	(附帯施設) <input type="checkbox"/> 側溝蓋の設置 <input type="checkbox"/> 土側溝をコンクリート側溝に更新 <input type="checkbox"/> 索道・軌道の更新
	農地	(附帯施設) <input type="checkbox"/> 防風ネット等の補修 <input type="checkbox"/> 排水施設の補修	(附帯施設) <input type="checkbox"/> 防風ネット等の更新 <input type="checkbox"/> 排水施設の設置
ため池	(ため池本体) <input type="checkbox"/> 洗掘箇所 <input type="checkbox"/> 漏水箇所の補修 <input type="checkbox"/> 浚渫すべき土砂量を把握し、浚渫	(ため池本体)	

	(附帯施設) <input type="checkbox"/> 取水施設の補修 <input type="checkbox"/> 洪水吐の補修 <input type="checkbox"/> 安全施設の補修	(附帯施設) <input type="checkbox"/> ゲート、バルブの更新 <input type="checkbox"/> 安全施設の設置
--	---	---

2. 対象施設、対象活動の項目の説明

(1) 水路（開水路、パイプライン）に関する対象活動

ア 水路本体

① 補修

水路の破損部分の補修

・ひび割れや部分的な欠損、側壁の倒壊、水路底の洗掘など、水路の一部区間が破損している場合、破損状況に応じた工法による補修等の対策を行うこと。

水路の老朽化部分の補修

・目地の劣化やコンクリート表面の磨耗、ひび割れ、はく離など、水路の一部区間が老朽化している場合、老朽化の状況に応じた工法による補修等の対策を行うこと。

水路側壁の嵩上げ

・水路敷きの不同沈下により溢水するといった通水機能に支障が生じている場合、水路側壁を嵩上げすることによる対策を行うこと。

U字フリーム等既設水路の再布設

・水路敷きの不同沈下により溢水や漏水、あるいは、土砂の堆積など、通水機能に支障が生じている場合、U字フリーム等既設水路の再布設による対策を行うこと。

② 更新等

素堀り水路からコンクリート水路への更新

・水路法面の崩壊や土砂の堆積等による通水機能の喪失や、清掃や泥上げなどの日常管理が困難な場合、コンクリート製の水路に更新するなどの対策を行うこと。

水路の更新（一路線全体）

・老朽化や不同沈下等による通水機能への支障が路線全体を通じて生じている場合、水路の路線全体の更新による対策を行うこと。

イ 附帯施設

① 補修

集水枡、分水枡の補修

・集水枡、分水枡の破損箇所や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

ゲート、ポンプの補修

・ゲート、ポンプの破損や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

安全施設の補修

・水路内への侵入や転落を防止するフェンスなど安全施設の破損箇所や老朽化

した箇所の補修等の対策を行うこと。

- ファームポンド（貯水施設）、ポンプ小屋、圧力タンクの老朽化部分の補修
 - ・ファームポンド（貯水施設）、ポンプ小屋、圧力タンク等の破損や老朽化部分の補修等の対策を行うこと。
- 給水栓の老朽化部分の補修等
 - ・共同管理している給水栓の破損や老朽化部分の補修等の対策を行うこと。

② 更新等

- ゲート、ポンプの更新
 - ・老朽化等により機能に支障が生じているゲート、ポンプ更新等の対策を行うこと。
- 安全施設の設置
 - ・水路内への転落防止や危険区域内への立入り防止等のために、新たに安全施設を設置することによる対策を行うこと。
- 分水栓、バルブ、給水タンク等の老朽化した附帯設備の更新等
 - ・分水栓、バルブ、給水タンク等の老朽化した附帯施設の更新等することによる対策を行うこと。
- ファームポンド（貯水施設）やポンプ小屋等の管理用地の舗装
 - ・ファームポンド（貯水施設）やポンプ小屋等の管理用地が未舗装で、パイプライン附帯設備の維持管理等に支障が生じている場合、路面を舗装することによる対策を行うこと。
- 給水栓の老朽化部分の更新等
 - ・共同管理している給水栓の老朽化部分の更新等することによる対策を行うこと。

(2) 農道に関する対象活動

ア 農道本体

① 補修

- 農道路肩、農道法面の補修
 - ・農道路肩、農道法面に侵食や土砂の崩壊などが生じている場合、当該箇所の状況に応じた工法による補修等の対策を行うこと。
- 舗装の打換え（一部）
 - ・老朽化等により農道の舗装路面の凹凸、轍、ひび割れ等がみられた場合、その一部を撤去するなどした後、新たに舗装するなどの対策を行うこと。

② 更新等

- 未舗装農道を舗装（砂利、コンクリート、アスファルト）
 - ・未舗装農道において、農道の維持管理等に支障が生じている場合、新たに路面を舗装することによる対策を行うこと。

イ 附帯施設

① 補修

- 農道側溝の補修
 - ・ひび割れや部分的な欠損、側壁の倒壊といった破損や目地の劣化、コン

クリート表面の磨耗、ひび割れ、はく離等といった老朽化が生じている場合、当該箇所状況に応じた工法による補修等の対策を行うこと。

□ 索道・軌道の補修

・農地に接する部分に支障が生じている索道・軌道について部分的な補修などの対策を行うこと。ただし、共同利用及び共同管理しているもの限り、駆動部の補修は除く。

② 更新等

□ 側溝蓋の設置

・農道において、側溝に蓋がないために車輛通行時に脱輪したり、農業機械の移動や作業等に伴って側溝を傷付けるなどの恐れがある場合、当該箇所に新たな蓋を設置することにより対策を行うこと。

□ 土側溝をコンクリート側溝に更新

・土側溝において、側溝法面の崩壊や土砂の堆積等による通水機能の喪失や、清掃や泥上げなどの日常管理が困難な場合、コンクリート製の側溝に更新するなどの対策を行うこと。

□ 索道・軌道の更新

・農地に接する部分に支障が生じている索道・軌道についてレール路線すべての更新などの対策を行うこと。ただし、共同利用及び共同管理しているもの限り、駆動部の補修は除く。

(3) 農地に関する対象活動

ア 農地の附帯施設

① 補修

□ 防風ネット等の補修

・防風ネットや防霜施設の破損箇所や老朽化部分の補修等の対策を行うこと。ただし、共同管理されている施設で、対象組織で合意された場合のみ対象とする。

□ 排水施設の補修

・排水施設の破損箇所や老朽化部分の補修等の対策を行うこと。ただし、排水施設の補修は、遊休農地発生防止のための保全管理の一環として、対象組織で合意された場合のみ対象とする。

② 更新等

□ 防風ネット等の更新

・老朽化等により機能に支障が生じている防風ネットや防霜施設の更新等の対策を行うこと。ただし、共同管理されている施設で、対象組織で合意された場合のみ対象とする。

□ 排水施設の設置

・湿潤な農用地で農業用機械による農作業に支障が生じている場合、新たに排水施設を設置することによる対策を行うこと。ただし、排水施設の設置は、

遊休農地発生防止のための保全管理の一環として、対象組織で合意された場合のみ対象とする。

(4) ため池に関する対象活動

ア ため池本体

① 補修

洗堀箇所の補修

・ため池において、堤体が洗掘されている場合、土のうを積んで補修する等の対策を行うこと。

漏水箇所の補修

・ため池において、老朽化等による堤体からの漏水等がみられた場合、遮水シートを設置する等の対策を行うこと。

浚渫すべき土砂量を把握し、浚渫

・堤体等の安定性を確保し、下流域の洪水被害や土砂流出被害を軽減するため、ため池又は沈砂池において浚渫すべき土砂量を事前に把握し、浚渫を行う等の対策を行うこと。

イ 附帯施設

① 補修

取水施設の補修

・ため池の縦樋、底樋、斜樋などの取水施設の破損や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

洪水吐の補修

・ため池の洪水吐の破損や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

安全施設の補修

・転落防止や危険区域内への立入り防止等のために設置されている安全施設の破損や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

② 更新等

ゲート、バルブの更新

・老朽化等により機能に支障が生じているため池のゲート、バルブの更新等の対策を行うこと。

安全施設の設置

・ため池への転落防止や危険区域内への立入り防止等のために、新たに安全施設を設置することによる対策を行うこと。